

2008年度「入学前セミナー及び個別面談」実施報告

肥 田 幸 子

目 次

1. はじめに
2. 実施のための事前の経緯
3. 実施の状況
4. 実施結果と考察
5. 今後の課題と提言

1. はじめに

2008年度入学生のための「入学前セミナー及び個別面談」が2007年3月に実施された。以下に実施の状況を報告し、アンケート結果、講師の学生評価等に対しての考察を今後の実施への提言としたい。

2007年10月、学長からの要請により、「入学前個別面談」のためのワーキンググループが立ち上げられた。本取り組みの目的は、入学決定者に対し、就学目的、将来の進路、悩み等を個別に話す機会を設けることによって、大学生になるという自覚を促すこと、また、大学としては事前に個別の情報を入手し受け入れ体制を整えたいというものであった。最終的には本大学の課題である中途退学防止策の一助になる可能性が期待された。

2. 実施のための事前の経緯

このような取り組みの先進校である松本大学からヒアリングを行い、より効果的な実施方法や、継続した学生生活援助の一部として機能するあり方等の議論が交わされた。実施に関する具体策として、個別面談をよりスムーズに効果的に行うために、集団セミナーと個別面談の2段階での実施となった。

今回は入学前の学生に働きかけるという本学では初めての取り組みであること、また、短期間で全員に対応できる外部講師を集めることが困難であること他いくつかの課題があった。そのため、対象者を一部入学予定者（推薦入試・AO入試合格者109人）に絞り、2008年3月に第1回「入学セミナー及び個別面談」の実施を決定した。

3. 実施の状況

1) 集合セミナー

日時	3月15日（土） 10：30～12：30
内容	<p>1部：外部講師から「大学生活と高校生活の違い」「大学は社会への準備期間」などの話を聞く。経営学部と人間学部の2室に分けて実施した。2名の外部講師は高校などでキャリアカウンセリングの非常勤講師の経歴をもっている。</p> <p>2部：個別ワーク 講師から説明を受けながら各自が「自己紹介シート」を作る。</p> <p>3部：自己紹介 教職員も参加して学生を小グループにわけ、各グループで自己紹介を行う。</p>

2) 個別面談

日時	<p>3月22日（土）23日（日）29日（土）</p> <p>9：30～16：00</p> <p>各学生に面談時間を指定し一人30分程度実施。</p>
内容	<p>前回の集合セミナーの時に書いた「自己紹介シート」をもとにキャリアカウンセラーと各学生が30分程度の個人面談を行う。面談担当は職業人であり、キャリアカウンセラー有資格者の6人に依頼した。面談内容は本学指定の「振り返りシート」（別紙資料③）に記録された。</p>

4. 実施結果と考察

1) 集合セミナー（3月13日）における学生記入アンケートの結果と分析

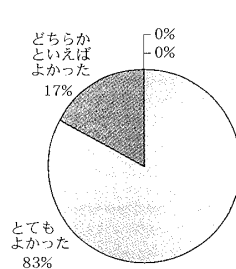
○受講者：83人（経営学部46人、人間学部37人、内人間健康学科33人、子ども発達学科6人）

○学生アンケート結果（アンケートは別紙資料①）

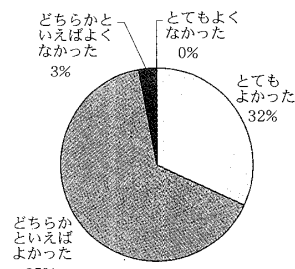
アンケート回答者83人（経営学部47人、人間学部38人、内人間健康学科32人、子ども発達学科6人）

A「愛知東邦大学へようこそ」を聞いていかがでしたか

1. とてもよかった 2. どちらかといえばよかった
3. どちらかといえばよくなかった 4. よくなかった



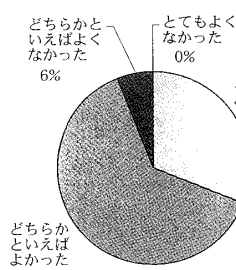
Graph 1A-1 経営学部



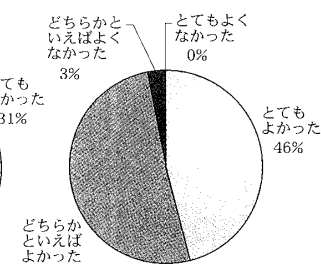
Graph 1A-2 人間学部

B「大学ってこんなところ」を聞いていかがでしたか

1. とてもよかった 2. どちらかといえばよかった
3. どちらかといえばよくなかった 4. よくなかった



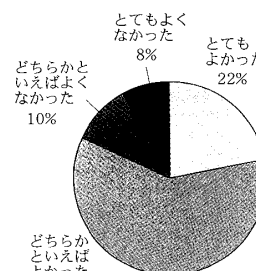
Graph B-1 経営学部



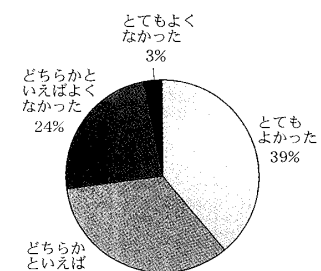
Graph B-2 人間学部

C「自己紹介」を作ってみていかがでしたか

1. とてもよかった 2. どちらかといえばよかった
3. どちらかといえばよくなかった 4. よくなかった



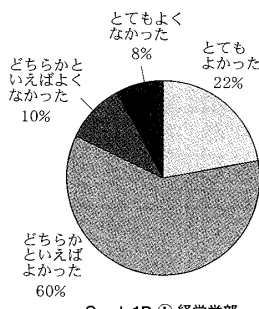
Graph C-1 経営学部



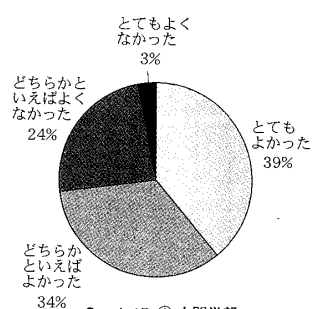
Graph C-2 人間学部

D 「自己紹介をしよう」に参加してみてもいいか

1. とてもよかった 2. どちらかといえばよかった
3. どちらかといえばよくなかった 4. よくなかった



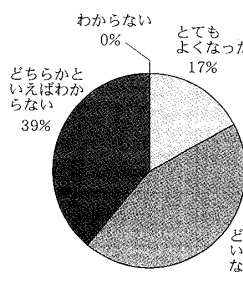
Graph 1D-① 経営学部



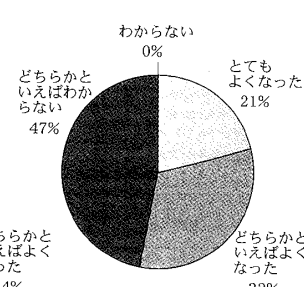
Graph 1D-② 人間学部

E 今日の入学前セミナーに参加して、愛知東邦大学に対するイメージが変わりましたか

1. とてもよくなった 2. どちらかといえばよくなった
3. どちらかといえばかわらない 4. かわらない



Graph 1E-① 経営学部



Graph 1E-② 人間学部

自由記述は経営学部47回答中14、人間学部38回答中23の記入があった。

A、Bは集合セミナー第一部に対する問いであるが、「とてもよかった」と「どちらかといえばよかった」をあわせると90%を超える。学部で差があるのは、今回講師が異なったためその個性が出たものと考えられる。

C、Dは第2部、第3部の自己紹介に関する設問であるが、「とてもよかった」と「どちらかといえばよかった」をあわせたものが75%くらいに下がる。しかし自由記述の内容は自己紹介について記述したものが多い。学生にとって、他者の前で自己紹介をすることはにがてである

が得たものは大きいと感じるようである。

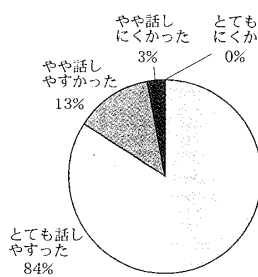
Eは全体としてこの集合セミナーがどのくらい愛知東邦大学のイメージアップにつながったかという設問であるが、ほぼ半数がよい変化があったと答えている。

自由記述には「将来をしっかりと目指す気になりました」「大学生になるんだという実感が湧いてきて嬉しい気持ちになりました」など、この取り組みの狙いにそった回答がみられる。その他では、「入学する前にいろんな仲間ができてよかったです」「入学前に同じ課の人としゃべれてよかった」など、早くもこの機会を友達作りの場としてとらえた学生もいたようである。

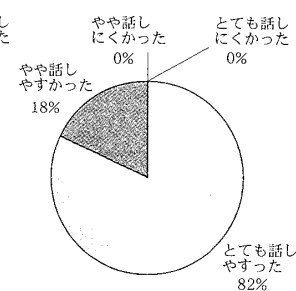
2) 個別面談（3月22, 23, 29日）における学生記入アンケートの結果と分析（アンケートは別紙資料②）

○受講者：80人（経営学部41人、人間学部39人、内人間健康学科33人、子ども発達学科6人）

A. 個人面談は話しやすい雰囲気でしたか。

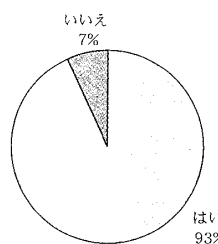


Graph 2A-① 経営学部

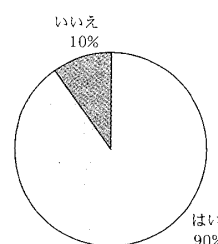


Graph 2A-② 人間学部

B. 個人面談はあなたの役に立ったと思いますか。



Graph 2B-① 経営学部



Graph 2B-② 人間学部

*「はい」と回答した方にお聞きします。どのような点で役に立ったと感じていますか。

以下の中から当てはまるものの()の中に○をつけてください。(いくつ選んでもかまいません)

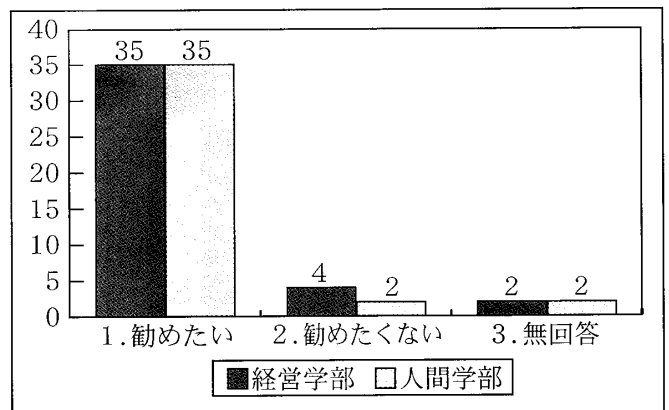
- () 一人ずつ話しをすることができてよかった。
- () 話を聞いてもらって気持ちが軽くなった。
- () 将来に対する関心を持つことができたようになった。
- () 大学生活をイメージできるようになった。
- () その他

	経営学部	人間学部
a. 1人ずつ話しをすることができてよかった	16	14
b. 話を聞いてもらって気持ちが軽くなった	12	21
c. 将来に対する関心を持つことができたようになった	18	8
d. 大学生活をイメージできるようになった	20	12
e. その他(具体的にどんなことか書いてください)	4	7

「eその他」の記入例
大学に入ってからのこと。将来何になりたいのか。
明るいといわれたので、大学生活で人と接しやすくなった。
自分が体験したこと、思っていることが正しいのか。

C. 今回参加した入学前セミナーを後輩に勧めたいと思いますか。

1. 勧めたい 2. 勧めたくない



Graph 2B-2

D. 入学前セミナーは土日開催でしたが、あなたにとってこの開催は望ましかったですか。

1. 土日でよかった 2. 平日がよかった
3. 何曜日でもあまり変わらない

	経営学部	人間学部
1. 土日でよかった	14	16
2. 平日がよかった	5	5
3. 何曜日でもあまり変わらない	22	16

感想意見などを自由に書いてください(抜粋)

夢について進むことを真剣にとりくもうと思った。
社会に出ている人と色々話ができ勉強になった。
とてもよかった。大学生活をイメージできた
なんだかすごい話しやすかったし、気をつかいすぎず終わったから、いろいろ話せた気がしてよかった。
友だちができるかどうか気になってたんですけど、他の人も同じ事思ってるんだなって知って、結構楽になりました。
話をした人が、学校の人ではなく、企業の人だったので、学校の詳しい内容などが聞きたかったのが、今回のセミナーは自分にとってあまり役にたたなかったと思った。

学生は今回の個別面談に対して、おおむね話しやすく、役に立つ内容であったと感じている。その内容は「将来に対する関心を持つことができたようになった」「大学生活をイメージする

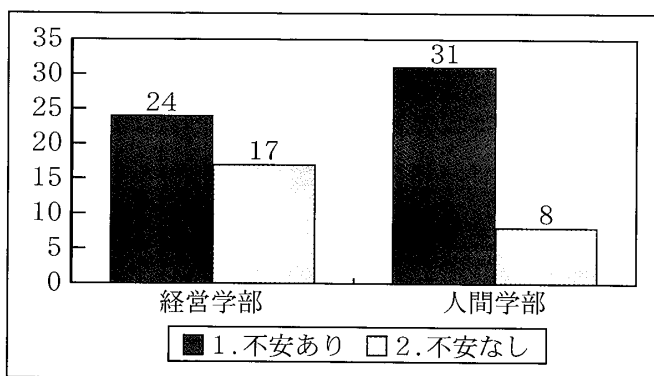
ことができるようになった」などが多い。「明るいといわれたので、大学生活で人と話しやすくなった」などは個別面談という形式であったこと、キャリアカウンセラーが参加学生の自己尊重度が上がるように配慮したことによって、このような結果が現れたものと考えられる。今回の入学者セミナー全般に対しても「後輩に勧めたい」と感じているものが全体の88%をしめ、自由記述の内容も好印象であったというものが多い。なかに「話した人が企業の人であったので大学のことが聞けなかった・・・」という回答があった。この学生には入学前セミナーの趣旨や履修や学生生活については入学後のガイダンスで話されるということがうまく伝わらなかったためと考えられる。

3) 個別面談（3月22, 23, 29日）における外部講師の学生評価と感想の結果と分析

i 個別面談後の講師の学生評価

外部講師に依頼した個別面談の「振り返りシート」より（様式は共通性を持たせるために本学で作成・別紙資料③－1、③－2）

入学を控えた今の気持ち



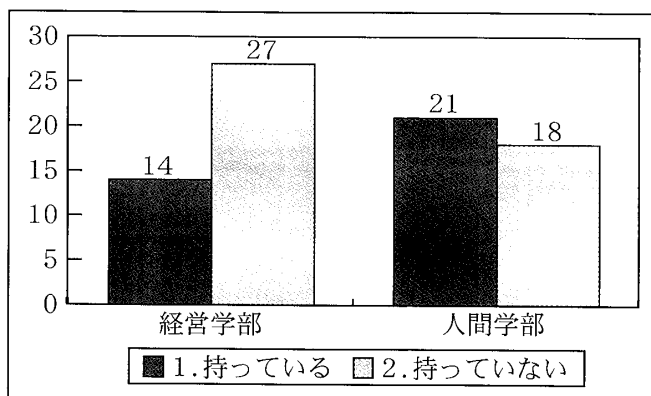
Graph 3-1

不安があるという回答の聞き取り（回答の多いものを抜粋）

- ・ 友達が出来るかどうか
- ・ 授業についていけるか
- ・ アルバイトとの両立

- ・ 一人暮らし

大学の学習に対する不安

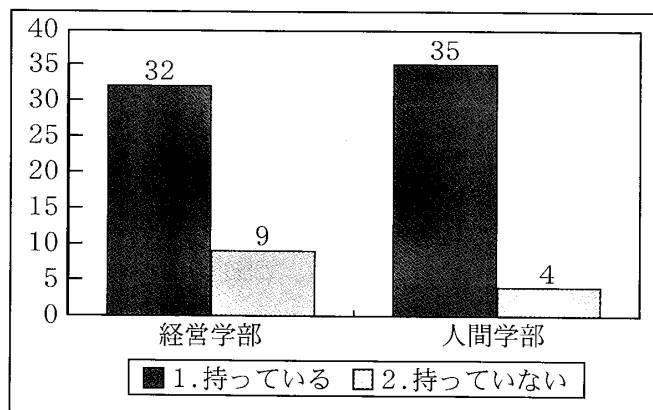


Graph 3-2

持っているという回答の聞き取り（回答の多いものから抜粋）

- ・ ついていけるかどうか分からない
- ・ 授業時間の長さに対する不安
- ・ 英語が分からない
- ・ 資格（保育士・教員）はとれるのだろうか

キャリアに対する関心



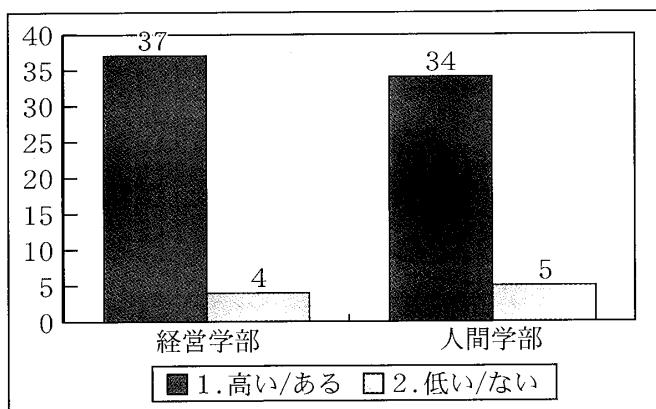
Graph 3-3

キャリアに対する関心の聞き取り（回答の多いものから抜粋）

- ・ 体育の教員
- ・ 保育士
- ・ トレーナー
- ・ 何か経営がしたい

・旅行業・ホテルマン

コミュニケーション能力



Graph 3-4

コミュニケーション能力に関する聞き取り（回答の多いものから抜粋）

- ・明るく積極的
- ・誠実な感じ
- ・緊張度が高い
- ・尋ねられたことに答えるだけ

外部講師の学生個別面談後の振り返りシートより分析を行った。

入学を控えた学生は不安を持っているかという設問において、不安あり51％、不安なし49％であった。人間学部の学生のほうが経営学部の学生より不安があると面談者が感じたものが多かった。6名のキャリアカウンセラーが振り分けて担当したため、単純に比較することは難しいが、その内容については人間学部では友達とうまくやれるかどうかという不安が圧倒的なのに比べて、経営学部では友達、学業、通学、アルバイトと分散しているのも特徴的だといえる。

キャリアに関する学生の関心は私たちが予測していたよりも高い。ある程度職業に関する目標が焦点付けられている人間学部だけでなく、経営学部においても79％がキャリアに対する関

心を示している。一つの要因としては個別面談に先立って開かれた集合セミナーの影響が考えられる。そうであるとするなら、この関心の高さを維持するために今後何を行っていけばよいのかの検討がなされなければならない。

コミュニケーション能力に関してはおおむね高いという結果である。非常に良好なコメントの出ている多数の学生と自分からは会話を進める能力が低いと評価された少数の学生が存在した。このような比率は現代の若者の全般的な縮図であるかもしれないが、本大学の他の学生においても感じさせられることである。コミュニケーション能力の低い学生に対して、スキルの向上をはかるなんらかの指導を考えなければならない。

ii 個別面談後、外部講師と本学担当者との話し合いから

- ・全般的には前向きで好感が持てる
- ・数名の注意を要する学生がいた
- ・行動態度に社会性の低さを感じさせる学生がいた

個別面談担当の外部講師とは振り返り用紙によるフィードバックのほか、個別面談終了後に本学担当者数名との懇談をかねた話し合いを行った。面談担当者の参加学生に対する印象はおおむね良好なものであった。しかし、数名の注意を要する学生についての意見も聞かれ、その後の参考になった。

セミナー、個人面談を欠席した学生に当日の資料を提供し、同時に欠席の理由を尋ねようとしたが、取りにきた学生はいなかった。これらの問題についても今後検討していく必要があると考える。

5. 今後の課題と提言

今回の実施から見えてきた結果の中で、今後の課題として以下の3点があげられる。各課題への検討を、以後の継続的取り組みに対する提言としたい。

1) 時期と対象に関すること

今回の取り組みは2007年10月にスタートした。それ以降、先進ケースの聞き取り、プランの立案、外部講師の手配、予算計画、承認、対象学生・保証人と出身高校への案内状等、順調な進展ではあったが約3ヶ月の期間を要した。時期は3月の中旬から末の実施、対象は100人程度に限定せざるを得なかった。

その結果、このような取り組みによる成果を享受した学生が一部に限られた。これによって、3)でも述べるが、継続したキャリアに対する支援のスタートに差ができた事も否めない。また、得られた情報も一部の学生（推薦入試・AO入試合格者109人）に限定された。中途退学者の多い一般入試は対象外であったため、それらの学生の情報入手や入試別比較を行うことができなかった。

高校に対し本学のきめ細かい対応を知らせることは入学者募集のためにより効果を生むと考えられる。当初は学生の出身高校に対し、案内状だけでなく取り組んだ内容や学生の反応結果をフィードバックする計画であった。しかし、今回は同じ出身高校に参加者と不参加者がおり、そのことによって起こる混乱を避けるために断念せざるを得なかった。次回はできるだけ多くの学生に実施することで、大学のアピールにも有効に活用できるだろう。

2) 個人の情報をどのように扱うか

今回、外部講師の申し送りシートや実施後の懇談会、参加スタッフの感想、学生アンケート記入内容等、少なからず新入学性に関する情報

を入手することができた。その情報を一部の部署が単に保管しているだけでは今回の試みが十分に生かされたとはいえない。もちろん個人情報に関する問題があるので慎重に扱う必要があるが、いろいろな場面で得られた情報とあわせて個人ごとに集約し、重要ファイルとして管理されることが必要だろう。そうすることによって、ゼミ担当教員が必要に応じて閲覧でき、支援の必要な学生には学科で対応を話し合うなど有効な活用が期待できる。

3) この1回の取り組みをどのように次の展開に生かしていくか。

この取り組みは、学生の意欲を高め大学も学生に関する情報を得ることができるという目的のほかにもう一つの利用の仕方がある。キャリアカウンセラーが面談し、社会人になることに向けて大学生活をプランするという下敷きがあるかぎり、キャリア教育の一環としての意味を十分に果たすことができると考える。

今や2、3年生になってはじめてキャリアガイダンスを行うのでは遅すぎる。現在は他大学においても就職に関する動きは前倒しになり、もはや小学校においてさえもキャリアを視野にいった教育を行っているところがある。この「入学前セミナー及び個人面談」をその一回目とし、2、3年生のキャリアイメージの構築に向けて活用していくべきであろう。このセミナー及び個人面談を受けた学生がより早い段階から単に就職ではなく、社会人としての自分を見つけていく。このような教育の構造を作っていくことがこの第1回実施をより有効に生かしていく方向であると考えられる。

第1回「入学前セミナー及び個別面談」WGは以下のメンバーで構成された。

人間学部 子ども発達学科 堀 篤美

人間学部 人間健康学科 肥田幸子

学務部進路課（旧）斉藤周一

学務部進路課（旧）所 智子

発足以降、ヒアリング、多くの打ち合わせのための会議、外部との交渉、書類の作成等を4人で行ってきた、実施当日はセミナー、個人面談各1、2名の職員の応援を得ている。アンケートは主に堀が作成しており、外部講師との交渉、振り返りシートの作成、データの打ち込みは所、対象学生、保証人、出身高校への挨拶文等は斉藤が作成した。

資料①

アンケート

今日はどうもお疲れ様でした。簡単なアンケートにご協力をお願いします。
・あなたの入学予定学部、学科を教えてください。

学部 学科

それぞれの項目で一番当てはまる選択肢を選びその番号に○をつけてください。

A～Dまでの質問の選択肢

1. 2. 3. 4.

とてもよかった どちらかといえばよかった どちらかといえばよくなかった あまりよくなかった

A. 「愛知東邦大学へようこそ」を聞いて、いかがでしたか。

1. 2. 3. 4.

B. 「大学ってこんなところ」を聞いて、いかがでしたか。

1. 2. 3. 4.

C. 「自己紹介」を作ってみていかがでしたか。

1. 2. 3. 4.

D. 「自己紹介をしよう」に参加してみてもいかがでしたか。

1. 2. 3. 4.

E. 今日の入学前セミナーに参加して、愛知東邦大学に対するあなたのイメージは変わりましたか？

1. とてもよくなった 2. どちらかといえばよくなった 3. かわらない
4. どちらかといえば悪くなった 5. かなり悪くなった

感想・意見などを自由に書いてください。

ご協力ありがとうございました。

資料②

アンケート

今日はどうもお疲れ様でした。簡単なアンケートにご協力をお願いします。
当てはまる選択肢を選び○をつけてください。

・あなたの入学予定学部、学科を教えてください。

1. 経営学部 地域ビジネス学科
2. 人間学部 人間健康学科
3. 人間学部 子ども発達学科

A. 個人面談は話しやすい雰囲気でしたか。

1. とても話しやすかった 2. やや話しやすかった
3. やや話しにくかった 4. とても話しにくかった

B. 個人面談はあなたの役に立ったと思いますか。

1. はい 2. いいえ

*「はい」と回答した方にお聞きします。どのような点で役に立ったと感じていますか。

以下の中から当てはまるものの()の中に○をつけてください。

(いくつ選んでもかまいません)

() 1. 人づつ話しをすることができてよかった。
() 2. 話を聞いてもらって気持ちが軽くなった。
() 3. 将来に対する関心を持つことができるようになった。
() 4. 大学生活をイメージできるようになった。
() 5. その他

具体的にどんなことが書いてください

C. 今回参加した入学前セミナーを後輩に勧めたいと思いますか。

1. 勧めたい 2. 勧めたくない

D. 入学前セミナーは土日開催でしたが、あなたにとってこの開催は望ましかったでしょうか。

1. 土日よかった 2. 平日がよかった 3. 何曜日でもあまり変わらない

感想・意見などを自由に書いてください。また、個人面談を受けて、もっと話したかったこと、あるいは聞きたかったことなどあったら、それも書いてください。

ご協力ありがとうございました。

資料③-1

入学予定学部：経営学部・人間学部（人間健康学科/子ども発達学科）

※該当に○をつける、人間学部は学科にも○をつける
名前：

該当する□にチェックを入れてください。

□には具体的なコメントをご記入ください。

1. 入学を控えた今の気持ち（不安、期待、その他）

□不安あり 不安とは既に困った事柄を持っている場合や漠然としているものも含みます。

□不安なし 入学に対する期待を感じる返答があった場合はそれほどのような事柄でしたか？

2. 自己紹介シート⑦の事柄（記入がない場合は話の中から聞きとれる場合は話しを展開してください。）

□ある

□特になし または考えてはいない（それは何故だと感じましたか？）

3. 大学の学習に対する不安

□持っている 持っているとは、講義についていけるかや勉強が不得意などです。

□持っていない

4. 生活環境

□規則正しい生活をしている

高校で授業がある時のように朝一定の時間に起きて夜一定の時間に床につくなどリズムがある。

□規則正しい生活をしていない

例えば、夜も遅い時間までアルバイトをしている。友人と夜、散歩しているなど。

資料③-2

5. キャリアに対する関心

□持っている 持っているとは、自己紹介シートの⑥に記入がある。
または職業のイメージを持っているなど。

□持っていない

6. コミュニケーション能力

□高い/ある あるとは、会話が成立することや生徒から発言があることです。

□低い/ない 会話が成立しにくい。質問に対する答えができない（合っていない）。

その他、事務局への（大学への）申し送り

例えば、入学後特別なケアが必要だと思われる事柄など。

生徒からの話の中にそのような内容が出てきたなどわかる範囲で教えてください。この点を深く聞き出す必要はありません。出てきた内容のみご記入ください。

（想定される事柄）メンタル面の不安を抱えている（通院している、治療歴がある）

身体にハンディがある

今までに不登校だったことがある

友だちと上手く付き合えない（人づきあいが極端に苦手）

□その他/担当者の感じたこと

生徒によって30分の面談時間が成立しない場合もあります。このような時は無理にカウンセリングを進めず、終了してください。その場合に気付いたことや気になる点を□その他/担当者の感じたことにご記入ください。